

ファッションロスゼロの実現に向けて ージャパンサステナブルファッションアライアンスの取り組みー



2025.10.29

令和7年度持続可能で循環型であるファッションに関する検討会

目次

1. ジャパンサステナブルファッションアライアンス団体概要
2. ファッションロスゼロに向けたこれまでの主な取り組み
3. サステナブルなファッション産業実現のための課題と展望

1. ジャパンサステナブルファッションアライアンス 概要

■ 個社では解決が難しい課題に対して共同で解決策を導き出していくための企業連携プラットフォーム

- サステナブルなファッション産業への移行を推進することを目的とした知見共有や議論の場
- 2021年に任意団体として発足し、2025年8月一般社団法人化

■ 2050年カーボンニュートラルとファッションロスゼロを目標に掲げ各種活動を実施

- ファッションロスゼロ・カーボンニュートラル・人権をメインテーマに定例会/委員会/WGを中心に議論・実行
- 国内外の重要動向についての**会員向け勉強会**の実施、**会員企業の取り組み事例共有**
- 個社でも企業連携でも解決が難しい事象については**政策提言を毎年実施**

会員企業一覧

正会員

賛助会員

原料・素材メーカー / 関連機関



アパレル / 小売



商社



リユース / リペア / リサイクル

ECOMMIT

地球にコミットする循環商社

JEPLAN



生産設備 / 機械メーカー

EPSON



副資材



検査 / 認証機関



ロジスティクス



活動目的など

JSFA

活動目的

ジャパンサステナブルファッションアライアンス（ジャスファ）は、各企業においてサステナブル・ファッションに向けた取組が進められている中、**個社では解決が難しい課題に対して、共同で解決策を導き出していくための企業連携プラットフォーム**です。

活動方針

ファッション産業が**自然環境及び社会に与える影響を把握し**、ファッション及び繊維業界の**共通課題について共同で解決策を導き出し**、**サステナブルなファッション産業への移行を推進**することを目的とします。

コミットメント

会員企業が定期的に会議を開催し、**サステナブルファッションに関する知見の共有**、**ファッションロスゼロ・カーボンニュートラルに向けた協働**、**国内外の重要動向の先行把握**、**業界内の共通課題を改善するために必要な政策提言**を行います。

1. パリ協定に賛同し、脱炭素型へのビジネスの移行を促進する。（逆行する事業については脱却に努める）
2. 2050年迄のネットゼロ宣言やRE100、EP100、EV100等への参加に努める。
3. サプライヤー・顧客に働きかけ、バリューチェーン全体の透明化に努める。
4. 適量生産・適量購入・循環利用を推進する。
5. アライアンスの一員として、政策関与やサステナブルファッションの協働に賛同・協力する。

人権に対する 考え方

ジャスファ及び会員企業は国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づき人権尊重の取り組みを推進します。

2050年
目標

「2050年カーボンニュートラル」
「適量生産・適量購入・循環利用によるファッションロスゼロ」

ビジョン
2030年

	ファッションロスゼロ	カーボンニュートラル
会員企業	・ 残在庫量や廃棄に関する実態把握による透明性の確保 ・ 循環利用システムの構築	・ 全過程における温室効果ガス(CO2換算)の把握と削減 目標数値を策定予定
	・ 次世代素材や新技術の活用、（原料・生産・デザインの各段階での）環境配慮設計の積極的採用 ・ サステナブルファッションに関した生活者との積極的なコミュニケーション	
ファッション産業全体	・ 統一の基準を用いた各過程における単純焼却および埋め立て量の可視化 ・ 単純焼却および埋め立ての削減 下記①～③における現状把握の調査を実施後、削減の目標数値を策定予定 ①生産における原材量、生地、端材 ②企業の残在庫 ③家庭からの廃棄	・ 統一の基準を用いた各過程における温室効果ガス(CO2換算)の可視化
日本社会	・ 回収、循環システムの試行 ・ 「不要となった衣料品を資源として生かす」ことが文化として定着 ・ 生活者によるサステナブルファッションに関連した選択、行動の拡大 ・ 社会およびファッション産業界における「ファッションロスゼロ」および「カーボンニュートラル」に対する意義の理解醸成	

2. ファッションロスゼロに向けたこれまでの主な取り組み

■ 繊維製品の資源循環の仕組み構築のための課題整理（フォアキャストでの議論）

- さまざまな業種が集まるジャスファの特徴をいかし、**繊維製品の資源循環構築のための課題について業種別/業種ミックスで議論**
- ファッション産業の「製造」「販売」「長寿命化」「回収」「選別」「再流通・再資源化」各工程について、**繊維製品の資源循環における課題や今後必要な施策等**を整理

■ 産業として目指すべき姿の明確化（バックキャストでの議論）

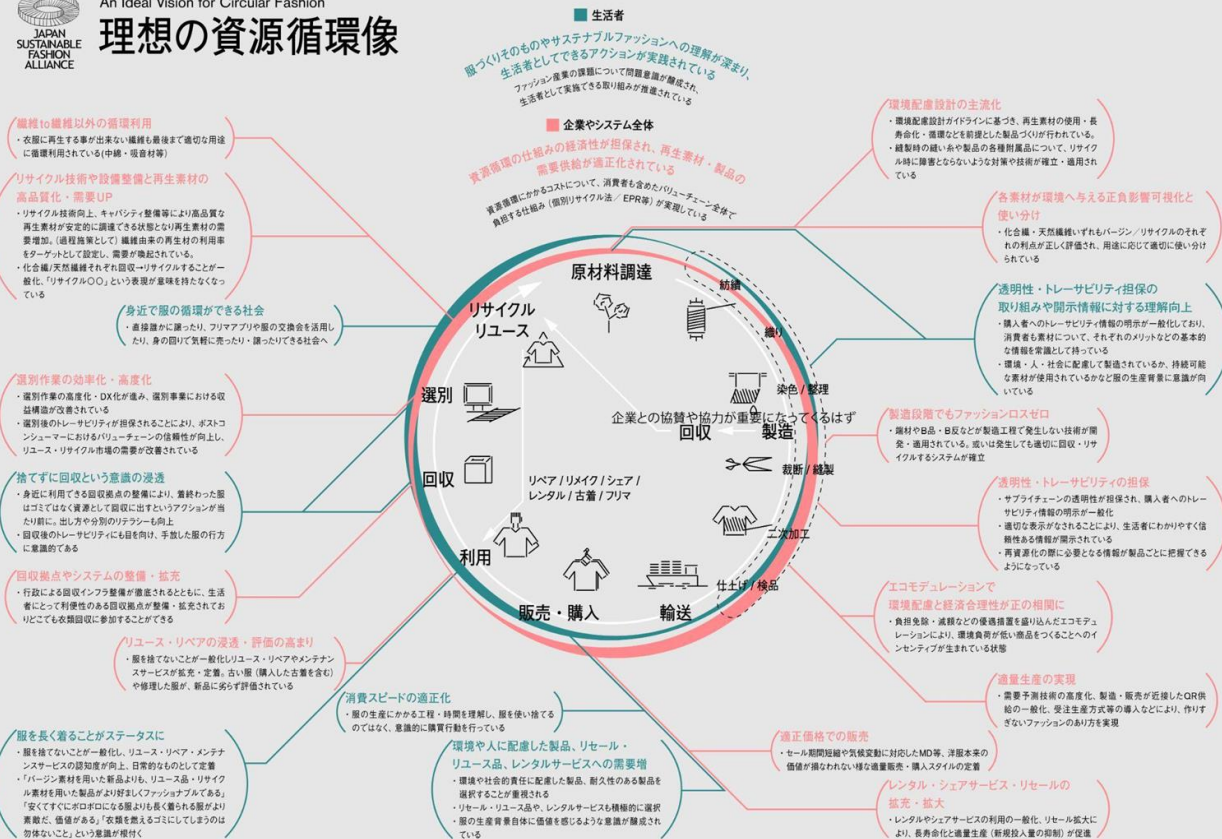
- 2050年ファッションロス達成のために**ファッション産業や社会全体のあるべき姿について議論を深化**
最終化したものを基に政策提言やロードマップ策定を進行
- また、ファッション産業や社会全体のあるべき姿については「**理想の資源循環像**」として外部にも発信

①「理想の資源循環像」の作成・外部公開（2025.9）



An Ideal Vision for Circular Fashion

理想の資源循環像



2050年ファッションロスゼロ達成のために、原材料調達～リサイクル/リユースまでの各段階におけるファッション産業や社会全体のあるべき姿について議論を行った。

議論結果について「企業及びシステム全体」「生活者」両視点で取りまとめた「**理想の資源循環像**」を作成し、外部公開した。

② 会員企業の衣類回収拠点マップウェブサイト作成・公開（2026年夏目標）

生活者が回収拠点にアクセスしづらいという課題に対し足元でできる施策として、ジャスファ会員企業が実施する**リペア/買取/古着回収事業の情報を一元化した「衣類回収拠点マップウェブサイト」**を作成中。

古着を持ち込みたい生活者が「どこで何を回収してもらえるか」が**直感的にわかる**ようにし、回収利便性を向上させることを目指す。現在、会員企業から1,000か所以上の拠点情報を収集・整理中

現在



- JEPLAN/ BRING
- ・回収拠点 4,720箇所
(2023.12時点)
- ・衣服



- ECOMMIT/ PASSTO
- ・回収拠点 3,000箇所以上
(2023.12時点)
- ・衣服、雑貨など



- andSTHD/Play Cycle!
- ・回収拠点 169箇所
(2024.1時点)
- ・衣服



- GOLDWIN/ Repair Service
- ・拠点：直営店、Web受付
- ・自社製品

etc.

ジャスファ加盟企業はそれぞれ古着回収/リペア/買取などの事業を行っているが、**各回収場所や回収品目等の情報が一元化されておらず、生活者が回収拠点にアクセスしづらい**状況

マップ作成後

絞り込み条件		
拠点タイプ	☐ リペア	☒ 買取 ☒ 回収
地域絞り込み	都道府県 東京都 ▼	市区町村 渋谷区 ▼
	☒ インターネット受付	
その他条件	☐ 回収品 ☒ 衣類 ☐ ファッション雑貨 ☐ 特典 ☒ 無料 ☒ 特典あり(クーポン等)	
検索結果 15件/1500件		
運営	住所	タイプ
〇〇	東京都渋谷区△△△△△ X Xビル 1~4F 〜〜〜ショップ	回収
〇〇	東京都渋谷区□□□□□ Y Yビル 〜〜〜ショップ	買取 回収

ジャスファ加盟企業による**古着回収/リペア/買取事業の各情報を一元化し、生活者が回収拠点へ容易にアクセス**できるようになる

③ ファッション産業におけるサステナビリティ推進に向けた政策提言の提出

2025年6月、ジャスファとして4回目となる政策提言書を公表し、消費者庁・経済産業省・環境省の3省庁へ手交。繊維製品の資源循環システム構築に向けて、実効性のある解決策を導き出していくために、繊維to繊維リサイクルに焦点を絞り、その課題と提案を取りまとめた。

ポリエステル toポリエステルの「ケミカルリサイクル」の技術や「反毛」など既に商業利用可能な技術に関しても、十分に活用されていないことが現状の大きな課題である。その主な理由は以下の通り

・バージン材と繊維 to 繊維再生材との価格差

ファッション・アパレル製品は価格弾力性が大きく、再生材の利用によって製品価格が上がると、消費者から受け入れられないことが確認されている。消費者が再生材を利用した製品を選択しない場合、事業者は生産時に再生材を採用することを継続できない。

・反毛の品質表示

反毛は回収衣類を再資源化しやすい技術である一方で、品質表示に関する課題が足枷となっている。複数の素材が混ざった衣類を反毛後に製品に使用する場合、その混率を正確に示すことは困難となる。紡毛糸、空紡糸においては、混率のパーセンテージを明記する必要のない表記表示が認められているが、主要な紡績方法である綿紡糸では認められておらず、反毛糸の採用が妨げられている。

・回収衣類の確保が不安定

全ての自治体で衣類の分別、資源回収が行われているわけではなく、また決められた場所まで持ち込む必要のあるステーション回収も多く、消費者にとって利便性のある回収の仕組みが構築されていない。廃棄するより分別、資源回収する方が容易である、あるいは同程度の負担である状態でないと消費者が排出する使用済み衣類を古着回収のルートに乗せることは難しい。

#	提言内容
1	【繊維 to 繊維リサイクルの処理キャパシティの調査】 「手放される衣料品のうち、繊維 to 繊維リサイクルで 5 万トン进行处理」との目標と現状との乖離を把握するためにも、<u>現在の国内(外)の繊維 to 繊維リサイクルの処理キャパシティの調査</u>をしていただきたい
2	【繊維 to 繊維リサイクルに係るコスト要因の調査】 再生材をバージン材と同程度の価格とするために必要なコスト調整の仕組みを検討するため、<u>再生材/バージン材を用いた製品の価格差の要因調査</u>をしていただきたい
3	【バージン材と繊維 to 繊維再生材の価格差をなくすための制度や補助】 繊維 to 繊維リサイクルシステムの構築期・移行期において、製品の価格差を埋め再生材を普及させるには、事業者の努力に加えて政府の関与も必要不可欠であるため、<u>価格差をなくすための制度や補助等</u>を検討していただきたい
4	【官公需による繊維 to 繊維再生材の採用】 繊維 to 繊維再生材の規模拡大と安定供給の足掛かりとして、<u>政府/行政による再生材の採用</u>を積極的に行っていただきたい
5	【故繊維の安定的な回収と品質向上に向けた施策】 自治体ごとの故繊維の取扱いに差が生じており、衣類の安定的な回収の妨げになることがある。故繊維の認識に関する行政との調整を行なって頂くことに加え、回収物の品質の底上げを図るため政府としての故衣料品回収後の処理実態の透明性を確保する方針を明示した<u>行政回収に係るガイドラインを策定</u>していただきたい
6	【反毛製品の表示ルールの見直し】 反毛は同一ロットの中でも混率が変化するために混率を百分率で記載できず、家庭用品品質表示法の定めによって製品を販売することができない。<u>反毛製品の組成混率表記について、繊維 to 繊維リサイクルの促進に繋がるよう表示ルールを見直し</u>していただきたい
7	【リサイクル処理施設の建設と持続可能な稼働費用支援】 国内(外)で、5 万トンの繊維 to 繊維リサイクルを実現する効率的な選別及び再資源化が可能となる施設を構え、継続的に稼働していくためには、膨大な費用が必要となる。<u>イニシャルコストのみならず、ランニングコストのサポート</u>を検討していただきたい

3. サステナブルなファッション産業実現のための課題と展望

繊維製品の「理想の資源循環像」を実現させ、ファッションロスゼロを達成するためには、以下のような課題を解決し、具体的な施策を進めていく必要がある

- **故繊維の安定的な回収量の確保・質の確保**
- **バージン材と繊維 to 繊維再生材との価格差解消**
- **再生材の需要創出**
- **反毛の品質表示ルールの改訂**
- **リサイクル処理施設のキャパシティ拡大と持続化 など**

また、ファッションロスゼロを達成し、サステナブルなファッション産業を実現していくためには、

ジャスファだけではなく、**業界内の他団体の皆様との連携、政府・自治体との連携、生活者との連携**など、様々なステークホルダーと協力しながら取り組みを進めていく必要がある

これらのステークホルダーとの連携を深めながら、引き続き、ジャスファは持続可能かつ循環型のファッション産業を目指して活動を続けていく